

教留プロジェクト

～先生になる人の留学を応援～

今泉 尚子（国際文化 4年）他 学生14名 事務職員1名

1. 活動概要

(1) 背景

今日のグローバル化は、学校現場も例外ではない。外国人児童・生徒の増加、英語教育の早期化及び留学者の若年化が進んでいる中、グローバルな視点を持った教員のニーズが高まっている。

しかしながら、本学から留学する学生は少ない。特に、半年以上の留学をする学生が少ない。その要因として、3つ挙げられる。

1 つ目は、教育留学の認知度が低い点である。「教員になるために、留学は必要ない」「留学は英語を学ぶためのものである」という考えを持っている学生が多い。

2 つ目は、本学には、留学に関する情報がまとめられた冊子がないという点である。

本学の学生は、教育実習などの教員免許取得のための必修内容が非常に多く、留学に行くタイミングが中々ない。留学のタイミングを考えるためには、教務課と国際交流室の両方に行き、情報を集める必要があるなど、非常に手間がかかるのが現状である。留学に行きたいにも拘わらず、情報収集に時間がかかるために、留学をあきらめている学生が多い。

3 つ目は、相談ができる繋がりがない点である。派遣留学をする学生は、毎年5名ほどいるが、その経験や留学に関する情報を、多くの他の学生と共有する機会は少ない。そのため、留学の相談を経験者にしたくても、中々できる機会が少ない。

本企画は、これらの3つの問題を解決するべく、活動を行ってきた。

(2) 目的・活動概要

〔将来、教育現場にかかわる学生がそのための資質・能力を高める留学＝**教育留学**〕を促進することを目指し、「教留プロジェクト」を実施した。具体的には次の2つを実施した。

①愛教大生のための「留学ガイドブック」作成

愛教大における留学情報の一本化を図るために、冊子を作製した。留学経験者や本学の教職員の協力を得て、留学に必要な情報をまとめた。



②「留学Week」の実施

教育留学をより知ってもらうため、様々なニーズに合った留学イベントを1週間にわたって行った。多くの留学経験者とつながるイベントを開催した。

2. 実施状況

はじめに、本学の留学情報の一本化するために、冊子の作成に取り掛った。7月から10月にかけて、「留学ガイドブック」の作成をメインに活動した。そして、10・11月で、留学Weekの準備を行い、11月の最終週に留学Weekを実施した。

(1)「留学ガイドブック」の作成

愛教大生のための留学情報をなるべく多く、正確かつ、わかりやすくまとめるため、何度も会議を重ね、ガイドブック作成のための計画を練った。ガイドブックをより、多くの人に手に取ってもらいたいという思いから、10月の保護者懇談会に配布できることを目標に作製した。ガイドブック作成のための会議では、留学経験者や留学予定者、また本学の留学生から、様々な意見が飛び交った。

7月に、冊子に掲載する内容が決まり、目次別のチームごとに分かれて、情報収集や紙面づくりの作業を行った。

この冊子の大きな特徴が3つある。

1 つ目は、愛教大生ができる留学を種類別に図表化し、自分にあった留学形態が一目でわかるようにした点である。このページは、多様な留学を経験したメンバーによって作成された。そして、情報の正確性を保証するために、教務課や国際交流室の職員の方に何度も内容を確認してもらった。

2 つ目の特徴として、愛教大における留学のタイミングを提案している点を挙げる。留学経験のあるメンバーによって、何度も話し合い、また様々な学科の学生から、実習や忙しい時期を聞き取り、最適な留学のタイミングを考える情報を揃えた。教務課の協力も得て、新課程にも対応した。

3 つ目は、在學生や卒業生の体験談を 16 人分掲載している点である。

短期や長期、派遣留学や私費留学など様々な留学経験者にインタビューをお願いし、費用など留学の詳細から、留学で得たことなど多岐にわたって掲載した。また、在学中に留学をした本学の卒業生にもインタビューをした。小・中・高の教員だけでなく、民間就職や一般公務員になった卒業生からも話を聞き、留学が現在のキャリアにどう活かしているかをまとめた。

他にも、留学準備に必要な情報や語学学習、学内でできる国際交流など、留学経験者だけでなく、留学予定者、留学に行く予定がない学生の観点から、内容を精査し、掲載した。

また、表紙と裏表紙は、この活動のメンバーである本学の留学生によって作成された。男子学生の留学が、女子学生より圧倒的に少ないことから、表紙のモデルを本学の男子学生にお願いし、撮影は留学生によって行われた。彼らが、母国でデザインを専攻していることもあり、洗練された表紙がこの冊子の顔となり、多くの学生に手に取ってもらえるものとなった。

この冊子は、保護者懇談会の留学ブースで配布、活用された。現在、国際交流室で開設されているグローバルスチューデントアドバイザーによる留学相談窓口(以下 GSA と表記する)でも使用されている。また、次に説明する留学 Week でも、多くの学生に配布された。

(2) 留学 Week

11月26日(月)～30日(金)の5日間にわたって、4つのイベントが行われた。



・留学入門者説明会

留学に少しでも関心がある人を対象に、留学とは何か、留学に関する基本情報を提供した。また、アジアに留学する学生が少ない現状を受け、アジア留学の魅力を発信した。

・世界の教育を知ろう

世界の教育に関心がある人や留学に行くことが難しい学生に向けて、教育留学を経験した学生から、世界各国の教育の実態を紹介した。



・ワークショップ「留学計画を立てよう！」

留学に行きたいと思っけていても、どこから初めていいかわからないという学生を対象に開催した。オリジナルの留学計画ワークシートをもとに、留学計画の立て方をレクチャーした。

・「教育留学そこまで言ったら委員会」

留学経験のある現職の小学校教員をお迎えし、教員として働く中で、留学の必要性についてお話し頂いた。さらに、本学の教員、留学経験のある本学学生と経験のない本学学生も加わり、教員になるために留学は必要か？どんな留学が効果的か話し合った。この様子は、Instagramでライブ配信も行った。



宣伝ポスター

パネルディスカッションの様子



3. 成果

(1) 留学ガイドブック

現在、約250部が、学生、保護者、教職員の手に渡っている。

国際交流室に相談に来る学生からは、「こういう情報が欲しかった」「もう、

何度も読み込んでいる」というコメントをもらった。また、既に留学に行ったことのある学生からは、「留学に行く前に、このガイドブックが欲しかった」という有難いコメントをもらった。

保護者懇談会では、留学相談にみえた保護者の方に、このガイドブックを用いて、相談にあたった。多くの保護者の方から、好評を得た。また、教職員の方からも好評を頂いた。

現在、国際交流室で開設しているGSAでも、このガイドブックが活躍している。

本学における留学情報の一本化という目標は達成された。

(2) 留学Week

アンケートを回収できただけでも、40名以上の学生がイベントに参加したことが分かっている。

アンケート結果から、多く学生がこれらの企画を通して、留学に関心を持ったことが分かった。一方で、留学に対する障壁として回答者の約90%

が留学資金を挙げていた。

留学Week後のGSAでは、様々な学科の学生が、留学してみたいという相談に訪れた。特に注目すべき点は、トビタテ留学JAPAN(以下、トビタテと表記する)への応募数だ。前回の10期では、3名の応募だったが、1月に募集した11期では、9名の学生が応募した。トビタテ以外にも派遣留学、私費留学の相談も多く、来年度以降、多くの学生が世界にはばたく予定である。このように、多くの学生の留学の一助になれたと考える。

4. 今後の展望

(1) 留学ガイドブックについて

留学ガイドブックは400部を来年度のために、取ってある。新年度に多くの新入生が相談に来ることから、新年度に残りの400部配布する予定である。また、多くの学生がインターネット上で見られるように、この「留学ガイドブック」のデータを国際交流室に譲渡し、ホームページにPDFで掲載する予定である。

(2) 留学Week

今回の留学Weekは11月に行ったため、あまり多くの学生の関心を集めることができなかった。来年度は、一番相談数の多い、4月～5月の時期に、留学イベントを行うことを計画している。継続的に、教育留学の促進、サポートをする活動を行っていく予定である。

今回の活動を通して、多くの学生が留学に関心を持っていることがわかった。その一方で、留学に関心があっても、中々留学に踏み出せない学生が多くいることもわかった。今回の留学Week等で、多くの学生の留学の後押しをすることができたが、それでも尚、大きな壁が存在している。それは、留学資金という問題である。

留学情報も揃い、留学計画もあるが、資金の調達が難しく、断念している学生がいることも事実である。私たちは、これまで、本学の派遣留学やトビタテなどを紹介してきた。

しかし、トビタテは、2020年以降の継続が未定である。長期で留学に行く場合、派遣留学でなければ、奨学金をもらうことが難しくなる。しかし、派遣留学で行ける留学先は、非常に限られている。特に欧米圏では、授業料不徴収でいける大学は、

ドイツにしかない。

私たちの課題は、更に、アジア圏留学の魅力発信していくことである。一方で、英語圏に留学したいという学生のニーズにもこたえていく必要もある。これからも、学生の声に耳を傾けながら、教育留学の促進活動を続けていきたい。

5. 決算

(予算：400,000円, 残額46,658円)

費目	支出額(円)
イラストレーター	38,100
冊子印刷 (留学ガイドブック)	285,012
留学 Week 講演招聘教員 (1名) (交通費)	1,900
留学 Week 講演謝金 (1名)	20,000
ホワイトボード	3,560
フラットファイル	4,770
合計	353,342

6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	4	今泉 尚子	国際文化
2	4	榊原 遼	国際文化
3	4	渡邊 なぎほ	国際文化
4	4	嶋岡 成美	国際文化
5	4	中垣 円花	国際文化
6	4	吉田 遼平	中等数学
7	4	岡田 みゆき	中等教育科学
8	4	伊藤 夏帆	初等英語
9	4	原田 梨世	初等英語
10	4	西脇 愛	国際文化
11	3	市川 将之	初等理科
12	3	中島 あさ美	国際文化
13	3	武藤 千歩	国際文化
14		鳥居 リリアンメイ	留学生
15		Sina Walter	留学生
16		中谷 千咲	学生・国際課職員